

# 事務事業評価シート(平成23年度実績分)

## (1) 事務事業の名称・位置づけ【Plan1】

事務事業コード	事務事業名	担当課	担当係名	所属長(課長等)名	担当者係長名
14121	ごみ資源物回収事業	住民税務課	生活環境係	松井 夕起子	古田 悟
		一次評価年月日	平成 24 年 5 月 25 日	連絡先(内線)	2114
事務事業実施の根拠・位置づけ	予算における位置づけ (会計区分・事業コード・事業名)	会計区分 <input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 特別	予算コード	事業名(歳出予算見積書)	
		<input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 特別	0461	塵芥処理事業	
		<input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 特別		#N/A	
	第五次総合計画前期基本計画の施策 体系における位置づけ	章 (コード選択)	1章	豊かな自然環境を育み活かすまちづくり	
		節 (コード選択)	4節	地球環境の保全	
		項[基本施策] (コード選択)	1項	循環型社会の構築	
目[主な施策] (コード選択)		2目	分別推進によるごみの減量化		
関連する計画等への位置づけ	<input type="checkbox"/> 第五次行財政改革大綱	<input type="checkbox"/> 3ヶ年実施計画	<input type="checkbox"/> 主要業務報告	<input type="checkbox"/> その他	第五次総合計画
事務期間	(開始) 年度 ~ (終了予定) 年度	<input type="checkbox"/> 開始時期不明	<input type="checkbox"/> 終期設定なし		

## (2) 事務事業の内容(目的と手段を把握します。【Plan2】

①対象(〜に対して)……この事務事業はどんな人(誰・何)を対象に行っていますか。

町民(ごみ排出者)

②目的(意図)(〜という状態にするために)……この事務事業のサービスを提供することによって対象をどういう状態にしたいのですか。

可燃物や不燃物及び資源物の適切な分別・排出への取り組みを促し、地球にやさしい住みやすい環境づくりを推進する。

③手段(事業内容)(〜を行う)……上記①の対象に対して、どのような手段で②の目的(意図)を達成するか、事業の実施内容(サービスの概要)を記入します。

- ごみ収集のきまり及び収集指定日等を設け、「ごみの計画収集」を実施。
- ごみを排出する際の「排出負担」(ごみ処理有料化)を実施。
- ごみ処理施設で生じる廃棄物の処理費を町が負担。
- 資源物の処理費用の一部を町が負担。

## (3) 活動指標の設定と推移……(2)の③サービスの概要(手段)の指標を表します。【Do1】

区分	単位	実績値		計画値		最終目標年度		
		22年度	23年度	27年度 (見込み)	達成率	27	年度 (見込み)	
①	指標名	資源物(古紙・古布・生ごみ・資源プラスチック・アルミ等)の年間計画収集日数	日	360	360	360	1.00	360
	説明	町内を8ブロックに分け収集(生ごみ収集についてはモデル地区のみ収集)	目標値設定の根拠	ごみ・資源物の収集日程に基づく				
②	指標名	可燃ごみ・不燃ごみ(不燃物・粗大ごみ)の年間計画収集日数	日	280	280	280	1.00	280
	説明	可燃ごみ:各地区週2回、不燃ごみ:月1回	目標値設定の根拠	ごみ・資源物の収集日程に基づく				

## (4) 成果指標の設定と推移……(2)の②目標(意図)の達成度を指標で表します。【Do2】

区分	単位	実績値		計画値		最終目標年度		
		22年度	23年度	27年度 (見込み)	達成率	27	年度 (見込み)	
①	指標名	資源物(古紙・古布・生ごみ・資源プラスチック・アルミ等)の計画収集量	トン	1,453	1,453	1,450	1.00	1,450
	説明	資源物(古紙・古布・生ごみ・資源プラスチック・アルミ等)の収集量	目標値設定の根拠	計画値は最近のごみ排出量に基づく				
②	指標名	可燃ごみ・不燃ごみ(不燃物・粗大ごみ)の年間計画収集量	トン	3,064	3,064	3,000	0.98	3,000
	説明	可燃物・不燃物の収集量	目標値設定の根拠	計画値は最近のごみ排出量に基づく				

## (5) 総事業費(コスト)の推移【Do3】

※事業費の算定方法  決算書・予算書等に記載の数字  按分計算による算定

○総事業費(コスト概算) =①+②	(千円)	平成22年度 決算	平成23年度 決算	平成24年度 見込み
		54,688	55,344	55,913
対前年比	%		101.2	101
A)その他の財源(国庫支出金・県支出金・地方債・分担金・使用料・雑収入など)		16,618	14,877	14,451
B)一般財源(税金)		38,070	40,467	41,462
①事業費	(千円)	49,150	50,058	50,734
対前年比	%		101.8	101.4
②人件費の概算	(千円)	5,538	5,286	5,179
対前年比	%		95.5	98
		年間人件費	年間人件費	年間人件費
町職員(正規職員)		5,538	5,286	5,179
臨時職員		0	0	0

人数及び人件費の算出は別シートで計算となっています。(人件費計算式)シート

指標化

(6) 項目別評価 [Check]

視点	項目別評価	判定	評価結果
必要性	1. 事業のニーズに変化はありますか	B	A 増加傾向にある B 変化していない C 減少傾向にある D かなり減少している
	2. 町(行政)が関与する必要性がありますか	A	A 町が主体となる必要がある B 町以外の主体で実施できるが町の関与は必要 C 町も関与するが関与の度合いを縮小できる D 町の関与のあり方を再検討する
目的妥当性	3. 対象の設定は妥当ですか	A	A 対象は現在の設定が妥当である B 対象の変更の余地がある →
	4. 目的(意図)の設定は妥当ですか	A	A 目的(意図)は明確で上位の施策に合致している B 目的(意図)は上位の施策に合致していない点がある →
有効性	5. 期待された成果は得られましたか(成果指標の目標値への達成度)	B	A 期待したとおりの成果があった B 概ね期待したとおりの成果があった C 期待したほどの成果が得られなかった → D 成果が少なく今後も向上する見込みがない →
	6. 連携可能な事務事業はありますか(町以外の取り組みも含めて)	A	A すでに実施している B 今後は可能性がある → C 今後も可能性はない
効率性	7. 成果を下げずにコスト(事業費・人件費)を削減できますか	B	A 余地なし B 当面は余地なし C 一部余地あり → D かなり余地あり →
	8. 受益者負担は適切ですか	B	A 検討の余地なし B 当面検討の余地なし C 一部検討の余地あり → D かなり検討の余地あり →
その他	9. 現在の事業内容(サービス)に対して、対象の声やニーズを把握していますか	B	A アンケートなど具体的な方法で把握している B 日常業務の中で把握している → C 把握していない

(7) 改革改善 [Action]

今後の方向性(上記評価結果をもとに今後の方向性を記入します。)  を一つチェックしてください。

- ア. 現状のまま継続する     イ. 見直しのうえで継続する     ウ. 終期設定     エ. 廃止     オ. 休止

〈今後の展開方針〉(イを選択した場合のみ を一つチェックしてください)

- a 重点化する(コストを集中的に投入する等)  
 b やり方を改善する(実施主体や実施の手段を変える)  
 c 効率化を図る(コストを下げる)  
 d 縮小する(簡素化する)  
 e その他(別事務事業に統合する等)

(ウ・エ・オを選択した場合のみ記入してください)

時期(年度)

事業改善の経過

(前年度で記入した事業の方向性の具体化内容についての評価やこれまでに事業改善をした経過を記入します。)

H22~H24まで3箇年の業者委託をしている。可燃物(上島商事)不燃物及び資源(遠藤産業) 委託料は3箇年で決まっているので変更できない。平成25年度から新たに契約となるので見直しを行う。

事業の方向性の具体化

(誰が、何を、いつまでに、どうするか(5W1H)等の改革改善案を記入します。)

家庭排出の厨芥ごみを堆肥化するため、リサイクル業者に処分委託。堆肥化を促進し、焼却ごみの減量化を図る。ごみ・資源物の適正な分別等の普及促進を広報、出前講座等を通じて行う。建設予定の新中間ごみ処理施設等の動向をみながら、将来的に収集日数(回数)の見直しを行い、収集委託費の削減を図りたい。

24年度予算見積書への反映  あり  なし

[反映内容]

収集業務委託料

(8) 所属長 所見 (事務事業の総合評価及び今後の方向性について)

(評価事務事業の責任者の意見として、総合的な評価に関する所見を記入します。)

新ごみ中間処理施設建設に向け、構成市町村のごみの減量化に様々な取り組みがされているが、厨芥ごみ堆肥化事業は有効ではあるものの要する費用が高額であり、他の方法を講じていくことが必要。資源ごみの徹底により可燃ごみはかなり減量できるため、引き続き出前講座等で啓発をはかることが重要

上位の施策の推進に貢献していますか。  をチェック

- A. 貢献度 大     D. 上位施策なし  
 B. 貢献度 中  
 C. 貢献度 小

(今後の方向性  を一つチェックしてください。)

- ア. 現状維持     イ. 見直しのうえで継続する     ウ. 終期設定     エ. 廃止     オ. 休止

上記 a~e を選択